

突然ですが、「眼高手低」という言葉をご存知でしょうか。元々は「知識があって色々と口は出すが、実際に実行する能力が無い」といった意味ですが、2008年にノーベル物理学賞を受賞した益川博士は「目標は高く、実践は基礎から着実に」という意味で、研究の心構えとしていたそうです。

私は、現在、河川環境分野を専門とする会社に所属していることもあって、魚道の設計や魚類等

の産卵床創出のための礫河原の再生検討といった生きものに優しい川づくりを多く手掛けています。川の平常時や洪水時の水の流れ方、河床低下や土砂堆積といった河道状況、どんな生きものがどんな場所で生活しているのかといった情報を収集すべく、現場を東奔西走し悪戦苦闘する日々を過ごしています。

なかでも、特に印象深いのは、空知地方のある一級河川で設計した頭首工の迂回水路型魚道です。

当該地域では、サケの稚魚放流が盛んに行われており、既設頭首工への魚道の早期整備が熱望されていました。魚道の完成により、72年ぶりにサケの遡上が確認されたほか、魚道の愛称も地元の小学生の命名で「サーモンロード」と決まったそうです。大げさな言い方かもしれませんが、多様な河川環境の創出による地域の活性化に資するインフラ整備に、微力ながら貢献出来たことを誇りに思っています。

話を元に戻しますと、「手低」というのは、「現場主義で、自分の貢献できる専門性を磨くこと」とも解釈できると思います。立派な志はあるが行動が伴わない「眼高手高」や志は無くとも現場で黙々と行動する「眼低手低」でもなく、ましてや志も低く行動も伴わない「眼低手高」でもなく、地に足をつけて自分の専門性に磨きをかけ、自分なりの社会貢献のスタイルを確立していきたいと考えています。

中村 成志 (なかむら しげゆき)

●建設部門[河川、砂防及び海岸・海洋]／農業部門[農業土木]

勤務先

株式会社エコテック
設計部



→次号は、沖 岳大さん(建設部門)

私は平成2年に日本気象協会に入社し、札幌を皮切りに旭川、室蘭、函館、再び札幌と道内各地を異動し、水文調査や気象調査、最近では風力発電関連の風況調査に携わる等、主に調査畑を歩んできました。平成26年7月に現在の職場、北海道気象技術センター(ハウテック)に出向となり、現在に至っています。この7月には27年間お世話になった気象協会を離れ、今の会社に移籍する予定です。

ハウテックが設立されたのは平成17年ですが、平成24年11月に気象協会北海道支社から水文調査業務実績の譲渡を受けたことを機に、フィールド部門の人材が多数移籍し、水文・気象分野の調査業務を中心に事業展開するようになりました。現在も気象協会に間借りし、事業的にも連携してやっています。

技術士を取得したのは平成26年で、平成18年に初挑戦してから足掛け9年かかりました。面接も一度失敗しており一旦は挫折しかけたのですが、マイペースな自分は、10年近く続けているとそのうち1回くらいは書ける問題に遭遇するものだ等と勝手に思い込み、あきらめずに受け続けました。

平成27年からは総監を取得すべく挑戦中ですが、こちらも結果は出ていません。総監の考え方は会社の運営にも役立つものと捉え、今の会社を小さいながらも社会から必要とされる企業となれるよう、日々の仕事を実地訓練と位置付け、自分の立場なりに取得を目指し精進したいと思っています。

時が経つのは早いもので5月には50歳を迎えます。まさに光陰矢の如し……を実感しておりますが、焦る気持ちを押さえ、少しでも若い人の手本となれるよう頑張っていきたいと思っています。

中野 洋一 (なかの よういち)

●建設部門
(河川、砂防及び海岸・海洋)

勤務先

株式会社 北海道気象技術センター



→次号は、齋藤正美さん(建設部門)